

2019年度
事業報告書・決算報告書

自 2019年4月 1日
至 2020年3月31日

2020年6月
一般社団法人 情報通信エンジニアリング協会

2019年度 事業報告書

2019年度事業報告

世界では、ICT 機器の爆発的な普及や、AI・ビッグデータ・IoT 等の社会実装が進み、社会のあらゆる場面で、デジタル革命が進展しています。こうした中、政府からは「未来投資戦略」が発表されました。日本には、企業・大学の優れた「技術力」や「研究開発力」、高い教育水準によるポテンシャルの高い「人材層」、ものづくりや様々な現場から得られる豊富な「リアルデータ」があり、また、人口減少、少子高齢化、エネルギー・環境制約など、様々な課題に直面している「課題先進国」でもあることから、AI やロボットなどの「革新的技術」の活用によって社会課題の解決を図るとともに、新たな価値創造をもたらす大きなチャンスを迎えています。日本ならではの持続可能でイノベティブな経済社会システム「Society 5.0」を実現するために、これまでの成功体験から決別した「非連続」な形で、従来型の制度や社会構造の改革を一気に進めていくことが重要であり、諸外国も同様の社会課題に直面し、技術革新、ソリューション提供競争が想像を超えるスピードで激化していくことから、この数年が日本にとっての不可逆的岐路であり、新たな決意とスピード感をもってこれらを進める必要があります。

私ども通信建設業界は、そうした活動を支えるため、これまで培ってきた情報通信建設分野での総合力を発揮するとともに、社会生活や経済活動に不可欠な情報通信インフラの構築・整備・保守に取り組むことの重要性について認識しているところです。

このような環境下において、協会並びに会員会社としては基軸である「技術力」「安全」「信頼」の観点でさらに競争力を強化し、自ら新しいビジネスチャンスを活かしていくことが必要です。ICT を支える情報通信分野において、固定系ではFTTH 基盤の全国展開がほぼ完了し、モバイル系では、5G・ローカル5G の導入拡大が急がれています。高速大容量・多数同時接続・低遅延といった特性が実現され、光ファイバ網とあわせて、世界に誇れる通信環境が構築されることにより、「Society 5.0」の社会実装を地域レベルでも実現する環境が整います。

頭脳としてのAI、筋肉としてのロボット、神経としてのIoT を使った新しいアイデアと豊富なリアルデータを活用した、個別化された製品やサービスが大きな付加価値を生み出すことに期待が高まっており、これからは様々なニーズに応えられるよう通信建設業者としてビジネススタイルを変革していくことが、新たなビジネスチャンスを創出することになります。通信インフラの建設・開通工事という枠組みのみならず、設計から保守・運用まで仕事の幅を拡げ、更にはオフィスやお客様宅内のICT化をサポートするところまで一元的にサービスを提供できるよう技術力を高めて、通信事業者様へ提案していくフルアウトソーシングというスタイルへの変革です。その受け皿となる技術者育成への取り組みも含め、ビジネスチャンスを活かせるよう取り組んでおります。

このような活動を展開するにあたっての競争力の柱は、従来から取り組んでいる施工の安全確保や品質向上、エンジニアリング力の強化と業務の効率化・生産性向上、そして人材育成への取り組みが引き続き重要です。

安全の取り組みについては、いかなる状況においても最優先すべき事項として取り組んでおりますが、事故発生件数は増加傾向にあります。脚立などからの落下等の重大な人身事故がなくなっておりません。基本動作を徹底するという協会統一施策を掲げ、人身事故・設備事故を撲滅し、お客様に「安心・信頼」していただけるよう、東日本・西日本安全部会等で安全・品質向上に継続的に取り組んでいるところです。具体的には、協会理事等による安全パトロールの強化並びに会員各社等での「安全の鉄則」に則った作業の徹底と「安全作業手順書」の更なる充実を進めています。安全は通信建設業界の要であり、その取り組みに終わりはありません。情報通信エンジニアリングのプロ集団としての更なる安全と施工技術並びに品質の向上を目指して日々研鑽に励みます。

エンジニアリング力の強化の主要な取り組みとしては、時代に即応した業界全体での技術力向上を目的として、光通信工事技能競技会を開催しています。昨年7月31日に「第14回光通信工事技能競技会」を神戸国際展示場において開催し、1,642人の来場者を集める盛大な競技会となりました。高度化するICT技術への対応及び工物品質、生産性の向上を図る一方、時代の要請に適合したマルチスキル化に対する実践的な総合エンジニアリング力の養成を目的として「光サービス開通の一連の光構築・開通工事を模擬した複合競技」と「中継光とメタルが併設された設備形態での復旧工事を模擬した複合競技」2種目を実施しました。また、昨年11月14日には、アクセス設備設計・積算におけるスキル向上と品質向上を目的として、東西エリア合同での「第10回アクセスデザインコンテスト」をNTT中央研修センタで開催しました。設計段階における安全性確保に配慮した付加価値提案を含めた課題設定とすることで、安全意識の向上にも効果を上げると共に、各社での創意工夫の共有化や切磋琢磨の場としても効果を上げています。

その他、日常業務を通じた創意工夫や改善をVE/VA活動として活性化し、水平展開するため「つくばフォーラム」への参加・展示を行いました。また、業務プロセスの見直し、安全施工への取り組みや工具・工法などの改善提案の優良事例を共有化し、更なる改善につなげるSKY（創造・改善・躍進）大会等を全国各地域で開催しました。

事業を支える人材の育成については、会員各社と協会が連携して取り組みました。協会の東西研修センタでは、時代の進展にあわせた新サービス・新技術の研修への反映、保守業務の拡大並びに過去からの設備維持に必要なレガシー技術継承に対応した研修の充実など、通信建設業界の総合力向上に資する「電気通信工事施工管理技士試験対策研修科」等会員のニーズに沿ったラインアップの整備を行いました。

安全関連研修については、人身事故・設備事故の撲滅に資するべく、転落・墜落等の重大事故リスクを多く取り入れた「フルハーネス型安全帯特別教育インストラクタ科」等による指導者向け研修や危険体感・演習を極力採り入れるとともに、施工者から管理

指導層向けまで多様な研修を用意し、安全への気づき、指導力の向上と基本動作遵守を再認識する機会として役立つものを実施しました。

また、少子高齢化により生産年齢人口は、今後30年で30%減少すると見込まれており、社会基盤を支える通信建設業界においても、パートナー会社も含めた慢性的な人材不足と高齢化が課題です。女性の活躍推進、シニア世代の活用、外国人雇用の環境整備、ICTを活用した生産性の向上等、様々な取り組みにより、安定した社会基盤を維持できるように、働き手の確保に努めました。

技術の進展がめざましく、社会・経済情勢が急激に変化する中で、当協会と会員各社は、工事の安全はもとより、施工技術の向上や施工方法の改善・改良に積極的に取り組みながら、新たなビジネススタイルへの変革にチャレンジし、通信事業者様のパートナーとして信頼され続けるよう、努めて参ります。

2019年度 決算報告書

貸借対照表
2020年3月31日現在

(全国)

(単位：円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|-------------------|---------------|---------------|--------------|
| I 資産の部 | | | |
| 1. 流動資産 | | | |
| 現金・預金 | 158,210,857 | 154,787,635 | 3,423,222 |
| 未 収 金 | 9,534,305 | 19,417,050 | ▲ 9,882,745 |
| その他流動資産 | 5,504,241 | 6,941,849 | ▲ 1,437,608 |
| 流動資産合計 | 173,249,403 | 181,146,534 | ▲ 7,897,131 |
| 2. 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| 預 金 (定期預金) | 3,281,765 | 3,281,765 | 0 |
| 基本財産合計 | 3,281,765 | 3,281,765 | 0 |
| (2) 特定資産 | | | |
| 退職給付引当資産 | 16,223,575 | 13,461,050 | 2,762,525 |
| 建物修繕引当資産 | 200,161,800 | 200,161,800 | 0 |
| 研修設備引当資産 | 201,209,182 | 175,209,182 | 26,000,000 |
| 設備維持引当資産 | 67,642,771 | 67,642,771 | 0 |
| 特定資産合計 | 485,237,328 | 456,474,803 | 28,762,525 |
| (3) その他の固定資産 | | | |
| 土 地 | 197,070,990 | 197,070,990 | 0 |
| 建 物 | 841,297,279 | 879,293,502 | ▲ 37,996,223 |
| 設 備 等 | 96,827,726 | 85,301,490 | 11,526,236 |
| 備 品 | 9,535,313 | 11,539,840 | ▲ 2,004,527 |
| リース資産 | 4,018,678 | 6,521,530 | ▲ 2,502,852 |
| プログラムソフト等 | 6,877,719 | 11,126,434 | ▲ 4,248,715 |
| 敷金・保証金 | 4,243,000 | 4,243,000 | 0 |
| その他の資産 | 820,000 | 820,000 | 0 |
| その他の固定資産合計 | 1,160,690,705 | 1,195,916,786 | ▲ 35,226,081 |
| 固定資産合計 | 1,649,209,798 | 1,655,673,354 | ▲ 6,463,556 |
| 資産合計 | 1,822,459,201 | 1,836,819,888 | ▲ 14,360,687 |
| II 負債の部 | | | |
| 1. 流動負債 | | | |
| 未 払 金 | 25,555,809 | 37,951,390 | ▲ 12,395,581 |
| 仮 受 金 | 101,160 | 102,270 | ▲ 1,110 |
| 預 り 金 | 1,829,981 | 4,289,396 | ▲ 2,459,415 |
| 未払法人税等 | 590,000 | 602,100 | ▲ 12,100 |
| リース債務 (短期) | 1,532,977 | 2,525,508 | ▲ 992,531 |
| 流動負債合計 | 29,609,927 | 45,470,664 | ▲ 15,860,737 |
| 2. 固定負債 | | | |
| 退職給付引当金 | 16,223,575 | 13,461,050 | 2,762,525 |
| リース債務 (長期) | 2,619,162 | 4,152,139 | ▲ 1,532,977 |
| 固定負債合計 | 18,842,737 | 17,613,189 | 1,229,548 |
| 負債合計 | 48,452,664 | 63,083,853 | ▲ 14,631,189 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1. 一般正味財産 | 1,774,006,537 | 1,773,736,035 | 270,502 |
| (うち基本財産への充当額) | (3,281,765) | (3,281,765) | 0 |
| (うち特定資産への充当額) | (469,013,753) | (443,013,753) | (26,000,000) |
| 正味財産合計 | 1,774,006,537 | 1,773,736,035 | 270,502 |
| 負債及び正味財産合計 | 1,822,459,201 | 1,836,819,888 | ▲ 14,360,687 |

監 査 報 告 書

一般社団法人 情報通信エンジニアリング協会
代表理事 小園 文典 様

2020年5月7日

監事 中山 俊樹



監事 袖山 裕行



私は、2019年4月1日から2020年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からの職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

計算書類及びその附属明細書は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

(3) 公益目的支出計画実施報告書の監査結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

以 上